

<2-2> 育成について

岡本：

育成については、以前、資料で出ささせていただいたのですが、今回資料ではなくて口頭で話をさせていただければと思っています。

育成については先ほどお話したとおり大事なところだと思っています。今回、新しいクラブハウスができました。それに伴って育成の方は今まで使っていた志木のグラウンドが拠点ということになります。そういった部分でなかなかグラウンドの確保ができない状況の中で練習を行っていたのですが、そういったところも含めて環境面を良くしていければと思っています。また、コーチについてもしっかりした指導者を置いて、充実も図りました。今シーズンは人数的な部分ではアシスタントコーチを含めて、子どもたちにより良い環境を与えられるような形で出来ればと思っています。

志木のグラウンドが育成専用ということになりましたので、将来的には、ユースチームを全寮制のような形を取って、同じ高校に行って、早い時間で練習できるようなことを出来ればと思っています。そして食事の面でも、今、終わった後に食事を取らせているのですが、先ほど言ったガンバとの違いという部分で、体格的な部分もあります。そういったところも含めて、総合的に育成を強化して、トップチームに上がる選手をもっともっと作っていければと思っています。

特に今シーズン、高校3年生はジュニア1期生ということで、大山選手ですとか鯉沼選手がトップチーム登録をしております。そういった部分で育成の部分も非常に結果を出してきております。そういった中で毎年、安定した形でトップチームに上がるような選手を作っていければと思っています。

司会：

それでは続きまして、育成に関して質疑応答に入りたいと思います。質問のある方挙手をお願いいたします。では、緑の方。

質問者 2-1：

すみません、質問をさせていただきます。育成について、育成+ α というところはあるかと思うんですが、クラブとして目指すビジョン、方向性というか、理想のスタイル、戦い方というものはありますか。例えばバルセロナのようにトップチームの戦術をそのままユースで練習をするだとか、もしくはアルディージャとして、このような戦い方、こういったフォーメーションにこだわりをもって必ずどんな状況でも戦っていくんだ、それに合わせた監督を見つけていくんだという様な、今あるのかどうかっていうのは正直個人的にはあまり持っていないのかなという風に思っているんですが、将来的にどうでしょうか。

岡本：

はい、最初立ち上げた時に、ピム・ファーベークが来まして、オランダサッカーというところを標榜しておりました。ただ、それについては育成も含めて、近年色々サッカー自体が大分変わってきております。そういった中で、今ドイツが、ボールを繋いでサッカーをしたり、そういう国々によってのスタイルというのはなかなか見えてこなくなってきております。そういった中で、われわれとしては常にやっぱり世界のサッカーに目を向けて、それについてしっかり合った指導者を、世界に選手を輩出する

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

という部分も含めて、指導者も含めて選手を派遣出来ればと思っております。

その中で、やはり攻撃というところは非常に難しい部分があります。バルセロナ、やはり育成の中からずっと一緒にプレイをして同じ戦術の中で熟成してきています。そういった部分で、われわれも将来的にはそういう育成含めてそれが熟成してトップチームに繋がるサッカーという部分は出来るようにやっていければと思っております。ただ今、先ほどお話したとおり、今トップチームの編成上のところで、どうしても移籍してきた選手が多くなってきています。そういった中でやはりどうしても一年一年の結果というところを考えた時になかなかそれが出来ていないというのが現状だと思っております。やはり将来的にはその育成含めてスタイルを持って、守備はしっかり構築して、その中で攻撃という部分をもっともっと高めていきたいと思っております。

サッカーのスタイル、手段というところでは、ポゼッションサッカーですとか、カウンターサッカーというのはあると思うんですが、やはりチームとしては多様な攻撃パターンを持っているということが一番大事だと思っておりますので、ただカウンターだけしか出来ないというよりも、しっかり相手が引いた時にはブロックを崩すようなサッカー、そういうことをしっかり育成年代から意識してやっていくということは大事なことだと思っております。

司会：

はい、ありがとうございます。続いて質問のある方いらっしゃいますでしょうか。それでは次のテーマに移らせていただきます。